

お〜いお茶 新俳句大賞の 某賞受賞！？の巻

131 HotSalmon

・自己紹介

X680x0 同好会の HotSalmon という者です。このサークル内では普段、ゲーム制作やイラスト制作等をしております。たびたび長期間でデカイゲームを制作しようと思んでいるのですが、中途半端なところで飽きて放置してしまうのが悩みです。企画したら誰か代わりに作ってもらえませんか……。

・はじめに

こんな自己紹介しておきながら、ゲーム制作とは全く関係の無い話で恐縮です。ついこの間、私の作った俳句が、お〜いお茶 新俳句大賞の特別佳作賞を受賞してしまいました。今年の運を使い果たした瞬間でした。その後初めて授業の単位を落とすやら、20歳の若さでギックリ腰^(*)にかかるやら、不幸続きです（大体が自業自得）。前半はその体験談ですが、ただの自慢話になってしまったかもしれせん……。腰痛と戦いながら頑張って書いたのですが、読み飛ばして下さっても結構です。後半からは新俳句大賞についての解説と、受賞する為の注意点を自分なりにまとめておきました。拙い文章の上、途中変なイラストを挟んでいますが、お付き合いください。

(*)欧米では「魔女の一撃」とも呼ばれている状態異常。これを喰らうと、激痛が腰を襲い、二日間は歩けなくなる（座ることもできない）。ホントだってば……。



ギックリ腰のイメージ図

・事の始まり

今年の2月頃、東京で珍しい大雪に見舞われたのは電通生の皆さんの記憶に新しいと思います。私はその頃、自宅に籠って徒然なるままにネットサーフィンをしていました。ふと窓の外に広がる一面の銀世界をボーっと見ていたら、何故か一句浮かびました。そして、何となくの思いつきでそれをそのまま「お〜いお茶」の公式HPから、「お〜いお茶 新俳句大賞」に投稿してしまいました。

・忘れた頃に

「お〜いお茶 新俳句大賞」に投稿したのはこれが2回目です。初めて投稿したのは、高校のとき、国語の授業で、「団体で新俳句大賞に投稿するから、5句以上考えてこい」という冬休みの宿題を出された時でした。そのときは一生懸命考えた挙句、賞にかすりもしなかったので「抽選なんてこんなもんか」という印象を持っていました。今回は何の期待も持たず、ただなんとなく投稿しただけなので、投稿した事自体すぐに忘れていました。

5月ごろ、実家の母親から「なんか伊藤園からハガキが届いてるよ」と、連絡が来ました。「まさか……」と思いながらも、実家にハガキを取りに帰りました。

・伊藤園からのハガキ

自分宛に届いたハガキの内容はざっとこんなものでした。

あなたの俳句が受賞するかもしれないので以下の質問に答えて下さい

- ・俳句の読み仮名を書いて下さい。
- ・この俳句を公開したことがありますか？（はい or いいえで答える）
- ・自分で考えた俳句ですか？（はい or いいえで答える）

原本が往復ハガキ^(*2)で、質問が書かれていた返信部分が手元にないため、うる覚えで書いた内容ですのでご了承下さい。このハガキは、受賞対象者にではなく、あくまでも受賞の候補者に送られるもののようでした。私は調子に乗りやすいのでこの時点で内心「賞金ゲットだぜ！」とか思ったのですが、ただの白昼夢に終わってしまいました。この理由は後に書きます。

(*2)往信用ハガキと返信用ハガキが1つに繋がっているハガキ。返信するときは返信部分を切り取って送る。

・謎の電話

ハガキが来てから1か月くらい後、私の携帯電話に覚えのない電話番号から電話がかかってきました。間違い電話かなと思って最初はスルーしたのですが、後日同じ番号から再度かかってきました。しかし、実際に出たのは3度目にかかってきた時でした。そしたら、伊藤園本社の人からの電話でした。物凄く申し訳ない事をしてしまった……。

その電話は、「この句を作った時の気持ちを教えてください」という内容でした。事前に電話がかかって来ることを知らなかったので、少し放心状態になりました。それに、作ったのが何ヶ月も前の話なので、正直その時の気持ちなんてすぐに思い出せなかったもので、答えるのに少し苦労しました。この時も、受賞が決まった人への質問ではなく、あくまでも受賞した場合に、作者の気持ちとして載せるかもしれない^(*3)内容を聞いているのだと、念を押されました。なかなか本社の人はじらしてきます。



見知らぬ電話番号に戸惑う筆者

・そして、受賞者発表

今年7月7日、新俳句大賞の受賞者が発表されました。姉が自分の名前を発見して、母親を介して連絡してきました。新俳句大賞のことをまたもや忘れていた自分は、その連絡で初めて気づきました。今回投稿した「第二十五回お〜いお茶新俳句大賞」には、過去最高の173万句の投稿があったそうです。私が受賞したのは、受賞者1689名の佳作特別賞というもの。確率的に見ればかなりの快挙です。これだけでも嬉しかったけど、調べてみると賞金が貰えるのはこの1つ上の賞から。賞金ゲットとはなりませんでした……。惜しい！

(*3)ちなみに、作者のコメントが載せられるのは文部科学大臣賞・大賞みたいな凄い賞くらいです。そう思うとうかつな事は言えないので、テンパるのも仕方が無いですよ。

・「お〜いお茶 新俳句大賞」とは

詳しくは、「お〜いお茶 新俳句大賞」の公式HPを見ていただければ分かると思いますが、ここで少しまとめさせていただきます。

「お〜いお茶 新俳句大賞」は、お〜いお茶を販売している伊藤園が開催する、俳句というよりは川柳のコンクールです。作品は自由なテーマで、季語や定型にとらわれずに五・七・五のリズムで自分の気持ちを表現していればいようです。なんと英語で俳句を表現した英語俳句^(*4)というものも募集しています。そこから辺も含めているので「新俳句」と名づけているのでしょう。

応募の部門は全部で6つ。小学生の部・中学生の部・高校生の部・一般人の部A（40歳未満）・一般人の部B（40歳以上）・英語俳句の部で、英語俳句の部は年齢・国籍問わず誰でも応募することができます。

賞については各部門で大賞・優秀賞があり、日本語俳句のみを対象とした賞が文部科学大臣賞・佳作特別賞で、日本語・英語俳句両方を対象とする賞に審査員賞・後援団体賞・都道府県賞・佳作があります。他には、団体応募向けの賞で優秀学校賞・団体応募賞があります。佳作と団体応募賞はパッケージには俳句は載せられません。なので私の俳句が受賞した佳作特別賞が、パッケージに載る中で一番低いグレードの賞です。

佳作特別賞を獲得した私の貰える賞品は、公式HPには自分の作品が掲載されたお〜いお茶と、受賞作品集と書いてあります。この間、8月に自分の作品が掲載された賞状と、受賞作品集である「自由語り」という冊子（非売品）が送られてきました。しかし、手元に来た受賞者への連絡が書かれた紙によると、パッケージに自分の作品が掲載されたお〜いお茶が届くのは、平成27年春～平成28年秋、とのこと。またまた、忘れた頃に届くんですねえ……。

(*4)英語俳句の作品をいくつか見たところ、5・7・5字という訳でもなく、5・7・5音節という訳でもないようだし、6語で構成されるものもあれば12語のものもありました。短めの英語の詩であれば何でもいようです。

・どうすれば受賞できるか

募集の数がとにかく多いので、相当の運が必要だと思うのですが、これぞと思った俳句が思いつけばとりあえず投稿してみるべきだと思います。個人での応募方法はハガキ・FAX・インターネットの投稿フォーム・FaceBook^(*5)があるようで、1人6作品まで投稿できるようです。私はインターネットから1作品だけ応募した結果、受賞できた位なので、応募方法による受賞しやすさの差は特に無いと思います（逆に1作品だけだと目につきやすいのかもかもしれませんが）。

ただ、部門による差はあるでしょう。私は一般人の部Aで応募したのですが、今年応募された部門の中では、英語俳句部門の次に少なく、一般人の部Aは41999句で、応募総数の2.4%だけです。各部門に大賞・優秀賞が用意されていることから、653833句も集まった高校生の部よりもこちらの大賞・優秀賞が取りやすいことは明らかです。この記事の読者は大学生の方が大半を占めていることを前提にしますが、一般人の部Aに応募できる君達はなかなか受賞しやすいのではないのでしょうか！

英語俳句部門にいたっては、10183句だけの応募でした。文部科学大臣賞や佳作特別賞は狙えませんが、大賞・優秀賞が取れる可能性は高いと思われます。審査員賞など他の賞に関しては英語俳句の受賞できる枠が日本語俳句に対し少なくなっているのですが、大賞・優秀賞を狙うのならば、英語俳句に挑戦してみるのもいいでしょう。今年の英語俳句部門の大賞は日本人の方が受賞していました。

もし投稿してみて、伊藤園からの往復ハガキが届いたら、しばらくしたらかかってくる電話には備えておくべきかもしれません。前述した通り、俳句を書いた時の気持ちについて尋ねてきます。この時言ったことは大賞や文部科学大臣賞を取った時にしか発表されないのですが、おそらく審査の材料にもなるのだと思います。

(*5)個人情報漏洩に異常なほど警戒心を抱いている筆者の Facebook アカウントは、一年半ほど前に1・2回記事を投稿しただけで、以降はイイネ専用アカウントとして機能させているぞ！（最近ログインすらしてない）

・最後に

ここまで読んでくださった方、本当にありがとうございました。今年初めて会誌の記事を書いてみましたが、文章を書くのって難しいですね……。今回自分の記事を読んでいただいたことで、少しでも俳句大賞で受賞することに対するハードルを低く感じてくれるようになってくれれば幸いです。暇でしたら是非皆さんも応募してみましよう。自分は……。そうですね、サラリーマン川柳^(*6)にでも応募してみようかな。

なお、私が投稿した作品を掲載しないのは、入選作品の発表・出版に関する著作権は伊藤園に帰属するという応募条件で投稿したので、公開していいかどうかアヤしいからです。

べっ別に、恥ずかしいから載せない訳じゃないんだからねっ！



出演：えっくちゅ^(*7)、魔女

制作：HotSalmon

使用フォント：りいてがき筆、IPAex 明朝、IPAex ゴシック

(*6)第一生命が企画しているコンクール。サラリーマンをはじめ、OL・主婦・学生、誰でも作品を応募できる。時事ネタを絡めたユーモアや皮肉のある作品が多く寄せられる。

(*7)筆者が大好きなこのサークルの非公認マスコットキャラ。よく分からない生物であるのをいいことに、筆者の作品上で形を変えたりして遊んでいる。